

# 全釧路情報

2015.8.14 No.15 全釧路教職員組合

## 原水爆禁止2015世界大会参加報告③ 平和の大切さを改めて感じた8日間でした！

世界大会とその後の研究集会あわせて8日間滞在した広島で、他にも感じたことがたくさんあります。まとめて紹介します。

### ▼広島平和記念式典

6日の朝は、千羽鶴を原爆の子の像へ捧げた後、平和記念式典の様子を見ました。8時15分の黙祷は、身の引き締まる思いで参加しました。

会場へ行く道では、途中、道が通れなくなっていて、しばらくすると安倍首相を乗せた車が通りました。ホテルから会場までは、信号は全て青にして、止まらずに行けるようになっているそうです。

式典での安倍首相の話は、前日の国会審議で「核兵器も運搬が可能」という話があったばかりでしたから、どのような話をするか、興味をもって聞いていました。しかし、法案には全く触れられません。「丁寧に説明する」とあれだけいいながら、一番「説明」しなければならない被爆地で何も語らず、当たり障りのない、何も心に響かない言葉ばかりでした。

後でニュースを見て、参列した歴代首相としては初めて非核三原則を「語らない」ということに安倍首相の思いはあったようです。しかし、それも大きな批判を浴びて、三日後の長崎では語っています。圧倒的な「戦争法案反対」の世論の前に、「説明」もできず、自分の思いも表現できないほどに追いこまれているようです。

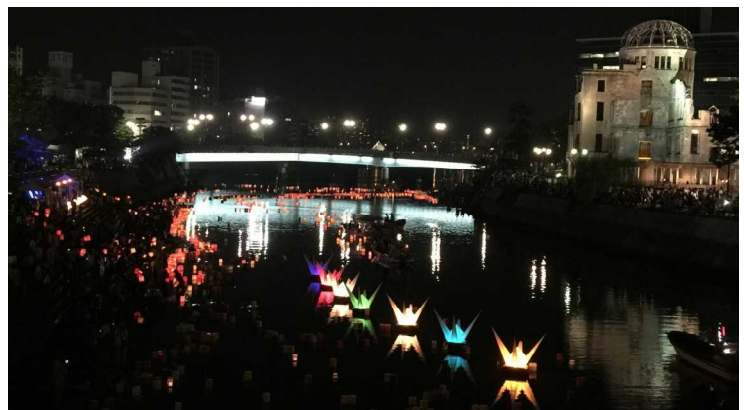


### ▼灯籠流し

6日の夜、釧根代表団の交流会の後、灯籠流しを見ました。

とても幻想的な美しさで、この小さな光の一つひとつに、当時ここで亡くなった方々の命が灯り、残された人々の思いが込められているのだと感じ、小さな光のはかなさを感じました。

と同時に、小さな光が集まって幻想的な風景を作り出すように、たくさんの平和への祈りが集まったとき、輝きを放ち、世論を動かす大きな力となっていく、そうした可能性も感じました。



## ▼動く分科会「岩国基地調査行動」

5日に行われた分科会は、動く分科会「岩国基地調査行動」に参加しました。6台のバスに分乗して移動しました。私が乗った3号車の案内人は、同じ民教とともに学んでいる仲間の先生で、不思議な縁も感じました。

ここでは、たくさんのお話を聞くことができました。基地の中には入れませんので、外から基地の様子を見て、説明を受けました。そこから見えるたくさんの施設は、全て米軍再編のあと新設されたものでした。今でも建設が進み、たくさんのクレーンが立ち並び、ひっきりなしにダンプが走っています。職人さんは日当4万円で働いていますが、これも長くは続きません。また、職人が皆基地にいるために、市内の工事が滞ってしまっています。

騒音対策のため、滑走路を沖合に移設するという話でしたが、跡地を返還するのではなく、一方的な大拡張となりました。滑走路は幅も長さも拡大され、編成離着陸が可能になるなど、大幅にその機能が増えています。住民の要求を逆手に取った形で拡大が進められています。

大変渋滞している国道の橋の横には、並行して米軍専用の橋もありました。米軍は渋滞もなくスムーズに移動できます。

基地の拡大に当たって、埋め立てのために近くの山をけずってその土砂を持ってきています。けずった跡地は住宅地にするということで市の許可が下りたのですが、山の中に住む人はいないので、米軍住宅に転用されることになりました。工事現場のフェンスには、小学生の描いた「ようこそ米軍」のポスターがはられています。学校教育にも、基地の影響があるようです。

基地の向かいにある、4000人が働いていた工場は、四国に移転となりました。戦闘機の爆音によって商品にほこりが落ちたり、高い煙突を立てられなかったり、不都合が多くて移転せざるを得なかったそうです。基地の補助金によって潤うのはほんの一握りの人だけで、多くの市民にとっては、経済的にもマイナスの影響の方が大きいようです。

岩国基地に駐留する海兵隊には、日本防衛の任務はありません。朝鮮戦争、ベトナム戦争、アフガンやイラクなどの戦争にも岩国から出撃しています。日本を守るために米軍が駐留し、基地を提供しているということではないのです。



工事車両が次々と目の前を歩いていきます。



建物の向こうに無数のクレーンが立っています。



この日は、爆音を上げる飛行機は来ませんでした。



米軍関係者専用の橋です。大渋滞の国道に並行しています。



米軍住宅建設現場には、岩国市内の小学生に描かせたポスターがはられています。



山の上にある岩国城から岩国基地を見るということで、錦帯橋から城下町も見て回りました。